

川崎市国際施策推進プラン第3期実行プログラム評価・総括評価について（概要）

第1章 川崎市国際施策推進プラン

1 川崎市国際施策推進プラン及び実行プログラム

(1) 川崎市国際施策推進プランと川崎市総合計画との関係

- 一層加速するグローバル化の中で、本市が持続的に発展するための基本的な考え方を明確にするため、平成27(2015)年10月、「川崎市国際施策推進プラン」を策定した。
- 上位計画である「川崎市総合計画」の分野横断計画に位置付けられており、計画期間は「川崎市総合計画」に合わせ、令和7(2025)年度までの概ね10年間としていた。
- 「川崎市総合計画」の5つの基本政策の中に位置付けられている国際関連事業や取組を、3つの基本目標及び取組方針・取組の方向性に基づき、再体系化したもの。

(2) 第3期実行プログラム

- 本プランに基づき、中期的な取組を「実行プログラム」として策定した。
- 「川崎市総合計画」における「実施計画」との整合性を図りながら、同実施計画に位置付けられた国際施策の推進につながる事務事業を、具体的な取組と合わせて網羅的に取りまとめた。
- 「川崎市総合計画第3期実施計画」の計画期間と合わせて、令和4(2022)年度から令和7(2025)年度までの4年間としており、本プランの最終計画期間にあたる。

2 川崎市国際施策推進プランの進行管理と評価

(1) 進行管理

- 庁内に設置した「川崎市国際施策推進委員会」において、「川崎市総合計画」における「実施計画」との整合を図りながら情報共有や連携、課題への対応を行い、進行管理を実施してきた。

(2) 評価

- 実行プログラムに基づき、各年度や各期での評価を行う。併せて、プラン計画期間終了後に総括評価を行う。

【川崎市国際施策推進プラン取組体系】

国際施策を展開するための基本的な考え方（グローバル都市像）

国内外から行ってみたい！住んでみたい！働いてみたい！そして市民が住み続けたい！
「世界をひき寄せる真のグローバル都市 川崎」

基本目標		取組方針・取組の方向性	
1	川崎発の最先端技術で世界をリードするまち	I 先端技術や産業集積を活かした国際展開	【主な取組】
		1 世界をけん引するビジネス拠点の創出	
		2 企業の海外展開による国際競争力の強化	
		3 海外への先端環境技術移転によるビジネス展開	
2	発信力を高め世界的プレゼンスを確立するまち	II 強みと魅力を活かした世界的プレゼンスの向上	【主な取組】
		1 国際的認知度向上の促進	
		2 海外から人を川崎にひきつけるまちづくり	
		3 海外諸都市との戦略的な関係の構築	
3	多様性が市民の生活を豊かにしていくことを誰もが認識しているまち	III 多様性を活かしたまちづくりの推進	【主な取組】
		1 地域での交流・多文化共生の促進	
		2 誰もが暮らしやすい環境づくり	
		3 グローバル都市・川崎を担う人材の育成・活用等	

第2章 第3期実行プログラムの評価

1 評価の方法

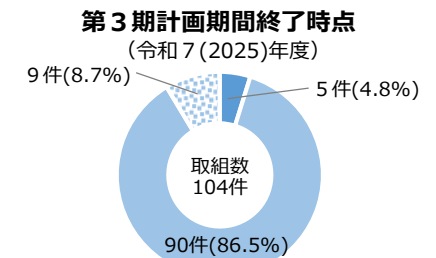
- 基本目標ごとに「基本目標評価シート」を作成する。
- 各取組の達成度の状況を把握した上で、参考指標の達成度等の定量的な成果及び各取組の実績を踏まえた定性的な成果等により、基本目標の達成状況を総合的に評価する。

基本目標の達成状況	
基本目標の達成状況区分	
A	順調に推移した (目標達成した)
B	一定の進捗があった (目標達成のものが一定の進捗があった)
C	進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった)
D	進捗は大幅に遅れた (目標を大幅に下回った)

2 評価の概要

(1) 各取組における達成度の状況

- 第3期実行プログラム計画期間終了時点に当たる令和7(2025)年度の各取組の達成度については、「目標を上回った」が5件(4.8%)、「ほぼ目標どおり」が90件(86.5%)、「目標を下回った」が9件(8.7%)、となっており、「目標を上回った」と「ほぼ目標どおり」を合わせた割合が約9割であることから、概ね順調に進捗している。



(2) 各基本目標における主な実績

第3期実行プログラム期間中の新たな取組又は拡充した取組等の主な実績は次のとおり。

基本目標1 川崎発の最先端技術で世界をリードするまち

- 国際戦略拠点活性化推進事業
ドイツのバイオクラスターとのライフサイエンス分野における経済交流に関する覚書の更新
- 新川崎・創造のもり推進事業
「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」の策定
- 海外展開支援事業
越境EC事業と連動した国内外商社等とのマッチング等、海外販路開拓に向けた支援の実施



ドイツのバイオクラスターとの覚書締結の様子

基本目標2 発信力を高め世界的プレゼンスを確立するまち

- 国際環境技術連携事業
海外都市のパネリストも交えた川崎国際エコビジネスフォーラムの開催
- 環境技術を活かした都市間連携の推進
インドネシア・プカンバル市の2050年ゼロカーボンシティ形成に向けた脱炭素ロードマップ作成の支援や、脱炭素化に資する案件形成の検討等の協力
- 若者文化の発信事業
ジャンプローブ世界選手権等の開催に係る支援の実施



ジャンプローブ世界選手権の様子

基本目標3 多様性が市民の生活を豊かにしていくことを誰もが認識しているまち

- 多文化共生社会の実現に向けた取組
外国人相談支援体制の充実に向けた「かわさき多文化共生プラザ」の整備
- 外国人介護人材活用の取組
ベトナム・タイグエン医療短期大学との連携による看護学生インターンシップ受入れ及び市内介護事業所への就労支援
- かわさきバラムーメント推進事業
市民、企業、団体等と連携した心のバリアフリー啓発イベント等の実施



かわさき多文化共生プラザ

(3) 第3期実行プログラムの総合的な評価

○社会経済環境の急激な変化

・第3期実行プログラム計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響からの社会経済活動の回復が進む一方、国際情勢の変化、エネルギー価格や物価の高騰、頻発・激甚化する自然災害への対応、脱炭素社会の実現に向けた取組の加速、生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な進展、外国人市民の増加など、本市を取り巻く環境は引き続き大きく変化した。

○基本目標ごとの達成状況

・基本目標1「川崎発の最先端技術で世界をリードするまち」、基本目標2「発信力を高め世界的プレゼンスを確立するまち」、基本目標3「多様性が市民の生活を豊かにしていくことを誰もが認識しているまち」について、それぞれ一定の進捗があった。

○総合的な評価

・ジャンプロープの世界大会開催による国際的認知度向上の促進や、「かわさき多文化共生プラザ」の整備等の多文化共生社会の実現に向けた取組の進展など、めざすグローバル都市像の実現に向け、一定の進捗があった。
・第3期実行プログラムは、令和7（2025）年度末をもって計画期間満了となったが、それぞれの取組について、本市の強みと魅力を最大限に活かしつつ、今後も「川崎市総合計画」に基づき着実に推進する。

(4)基本目標ごとの評価

基本目標ごとの達成状況については、次のとおり。

基本目標 1 川崎発の最先端技術で世界をリードするまち（取組数：14件）	達成状況
○各取組の達成度の状況 令和4年度及び令和5年度の2年間の達成度の状況は、「目標を上回った」と「ほぼ目標どおり」を合わせると約9割となったが、令和6年度及び令和7年度の2年間の達成度の状況は、「目標を上回った」と「ほぼ目標どおり」を合わせると約8割とやや落ち込んだ。 ○取組の方向性1 世界をけん引するビジネス拠点の創出 多摩川スカイブリッジ開通を契機として、大田区との拠点間の視察・交流会の開催等、羽田エリアとの連携を強化したほか、ドイツのバイオクラスターとのライフサイエンス分野における経済交流に関する覚書について、令和7（2025）年度に新たに川崎市産業振興財団を加えて更新するなど、一定の進捗があった。 ○取組の方向性2 企業の海外展開による国際競争力の強化 海外商談会での海外企業とのマッチングや、海外バイヤーとの通年マッチング、越境EC事業と連動した国内外商社等とのマッチングを実施したほか、海外展開支援の一環として、海外で開催される展示会への出展支援や、ホームページの多言語化やデジタルコンテンツの作成支援等の施策を展開するなど、一定の進捗があった。 ○取組の方向性3 海外への先端環境技術移転によるビジネス展開 川崎国際環境技術展について、令和4（2022）年度から対面での開催を再開し、令和5（2023）年度からはビジネスコンテンツに重点をおいた開催内容にシフトすることで、安定して目標値を上回るビジネスマッチング数を達成するとともに、グリーンイノベーションクラスターの運営においても、国の補助制度等を活用した、クラスター会員企業が行う新事業創出に向けた伴走支援等を行うことで目標とするプロジェクト創出件数を達成するなど、一定の進捗があった。 ○達成状況 これらの結果、基本目標1の達成状況は「B 一定の進捗があった」とした。	B

基本目標 2 発信力を高め世界的プレゼンスを確立するまち（取組数：29件）	達成状況
○各取組の達成度の状況 令和4年度及び令和5年度の2年間の達成度の状況は、「目標を上回った」と「ほぼ目標どおり」を合わせると令和4年度は約7割、令和5年度は約8割となったが、令和6年度及び令和7年度の2年間の達成度の状況は、「目標を上回った」と「ほぼ目標どおり」を合わせると約9割と上昇した。 ○取組の方向性1 国際的認知度向上の促進 令和5（2023）年3月、国の基金を活用した「液化水素サプライチェーンの商用化実証」において、液化水素の受入地として川崎臨海部が選定され、令和7（2025）年11月には、世界初の商用規模の施設である、国際水素サプライチェーンの液化水素基地の建設が開始された。また、令和5（2023）年にIJRU世界選手権（ジャンプロープの世界大会）等に関する基本合意書（MOU）を関係団体との間で締結し、それに基づき令和7（2025）年には、日本で初めてのジャンプロープ世界選手権が川崎市で開催され、30の国と地域から約2,600名が川崎市を訪れるなど、一定の進捗があった。 ○取組の方向性2 海外から人を川崎にひきつけるまちづくり 主要観光施設の年間観光客数については新型コロナウイルス感染症拡大前の水準にまで回復していないものの、海外向けの本市SNSアカウントや、多くのフォロワーを有するインバウンドメディアのSNSアカウントの活用、英字新聞への広告掲載等、各種プロモーションを実施するとともに、市内で最も外国人観光客が来訪している川崎駅周辺において、外国人観光客の多くが利用するGoogleマップへの飲食店の情報掲載及び運用の支援を実施し、市内宿泊施設の年間宿泊客数（外国人）が目標を上回るなど、一定の進捗があった。 ○取組の方向性3 海外諸都市との戦略的な関係の構築 商談会・現地調査や海外各都市からの視察・訪問を通じた産業交流を行い市内企業のビジネスマッチングを支援したほか、オーストリア・ザルツブルク市との若手演奏家の交流促進に向けたコンサートや、姉妹・友好都市への派遣、受入れによる対面交流、オンライン交流の実施を通じて海外諸都市との交流を着実に推進し、友好関係の深化につなげるなど、一定の進捗があった。 ○達成状況 これらの結果、基本目標2の達成状況は「B 一定の進捗があった」とした。	B
基本目標 3 多様性が市民の生活を豊かにしていくことを誰もが認識しているまち（取組数：61件）	達成状況
○各取組の達成度の状況 令和4年度から令和7年度の4年間を通して、「目標を上回った」と「ほぼ目標どおり」を合わせると約9割以上となった。 ○取組の方向性1 地域での交流・多文化共生の促進 「市立学校への外国人市民の講師派遣」の取組として、地域の外国人市民等を自国の文化を児童生徒に伝えるボランティア「民族文化講師」として派遣するなど、外国人市民の社会参画に向けた取組を実施したほか、令和6（2024）年度には多言語での生活相談等の新たな拠点として「かわさき多文化共生プラザ」を整備し、外国人相談支援体制の充実に向けた取組を推進するなど、一定の進捗があった。 ○取組の方向性2 誰もが暮らしやすい環境づくり 区役所においてタブレット端末を活用した外国人来庁者への多言語案内の実施や、川崎市総合コンタクトセンター「サンキューコールかわさき」における多言語対応の推進など、コミュニケーション支援を行ったほか、日本語指導の初期段階や中学生への学習支援等を行う日本語指導初期支援員を配置し、さらに特別的教育課程による日本語指導について、国際教室担当者及び非常勤講師の巡回により対象児童生徒がいるすべての学校で実施するなど、一定の進捗があった。 ○取組の方向性3 グローバル都市・川崎を担う人材の育成・活用等 令和4（2022）年度改訂の「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」に基づく取組として、パラムーブメントの理念浸透や心のバリアフリーの啓発のための啓発グッズの配布やSNSを活用した広報の展開、市民、企業、団体等と連携した心のバリアフリーの啓発イベント等を実施したほか、市立学校の総合的な学習の時間において、外国の文化を体験したり、世界の国々について調べたり、自国の伝統文化について学んだりする等、自他の文化を認め合う心身の育成等につながる授業を実施するなど、一定の進捗があった。 ○達成状況 これらの結果、基本目標3の達成状況は「B 一定の進捗があった」とした。	B

第3章

国際施策推進プランの総括評価

1

国際施策推進プランの総括評価について

各期実行プログラムの評価を基に、本プランの計画期間（平成27（2015）年10月から令和8（2026）年3月までの概ね10年間）における3つの基本目標の達成状況を評価する。

2

3つの基本目標の達成状況の評価

- 国際施策推進プラン、及び各実行プログラムの計画期間を通じ、「世界をひき寄せる真のグローバル都市 川崎」という都市像を指針に、各基本目標に沿った取組を着実に推進し、総じて、めざすグローバル都市像の実現に向けた進展が見られた。
- 本プランは、令和7（2025）年度末をもって計画期間満了となったが、それぞれの取組について、本市の強みと魅力を最大限に活かしつつ、今後も「川崎市総合計画」に基づき着実に推進する。

基本目標 1 川崎発の最先端技術で世界をリードするまち	各期の達成状況		
	第 1 期	第 2 期	第 3 期
	A	B	B

- 取組の方向性 1 世界をけん引するビジネス拠点の創出
 - ・キングスカイフロントにおいて、羽田空港との近接性を生かしたライフサイエンス分野の戦略拠点形成が着実に進み、世界トップクラスの企業や研究機関・大学などが順調に集積するとともに、令和4（2022）3月の多摩川スカイブリッジ開通により、多摩川両岸が一体となった成長戦略拠点としての機能が高まった。
 - ・川崎港においても、タイ航路や中国・東南アジア航路、ダナン港との直行航路など複数の航路が開設されるなど、国際物流ネットワークの拡充が進んだ。
 - ・ドイツのバイオクラスターとの覚書締結や、アメリカのバイオクラスターとの今後の連携に向けた意見交換を実施するなど、国際的なネットワークが拡大し、研究開発から事業化までを見据えた一連の産業活動がより円滑に進む環境が整備された。
 - ・これらの取組の積み重ねにより、川崎が世界規模で競争力を持つビジネス拠点としての存在感を高める基盤が、総合的かつ段階的に強化された。
- 取組の方向性 2 企業の海外展開による国際競争力の強化
 - ・海外への渡航が難しい期間には、市内企業ホームページの多言語化支援やデジタルコンテンツ作成を目的とした補助金の創設、オンライン商談会の実施など、新たな営業スタイルへの転換を後押しする支援が展開された。その後、対面型の機会も徐々に回復する中で、国内外商社との通年マッチング、越境 EC と連動した展示会参加支援、海外展示会出展支援の拡大など、企業が継続的に海外市場へ挑戦できる環境が整えられた。
 - ・こうしたオンラインとオフラインの両面における成長機会の確保により、市内企業の販路拡大や国際連携の深化が進み、結果として地域産業全体の国際競争力の向上が図られた。
- 取組の方向性 3 海外への先端環境技術移転によるビジネス展開
 - ・川崎国際環境技術展について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によりオンラインによる開催となった令和2（2020）年度及び令和3（2021）年度には来場数やマッチング数では従来水準に届かなかったものの、新たにオンラインを通じた層へのアプローチを可能にし、手法の幅を広げる成果を残した。
 - ・令和4（2022）年度から対面での開催を再開し、令和5（2023）年度からはビジネスコンテンツに重点を置いた開催内容にシフトすることで、安定して目標値を上回るビジネスマッチング数を達成した。
 - ・グリーンイノベーションクラスターの運営では、国の補助制度等を活用した、クラスター会員企業が行う新事業創出に向けた伴走支援等を実施した。
 - ・これらの取り組みが相まって、本市の強みである環境技術の国際展開と官民連携の促進が図られた。
- 達成状況

これらの結果、国際競争力の強化につながり、世界の一員としての役割を果たしながら世界をリードする産業都市をめざす本市の姿が一層具体化され、基本目標1は概ね目標どおり進捗した。

基本目標 2 発信力を高め世界的プレゼンスを確立するまち	各期の達成状況		
	第 1 期	第 2 期	第 3 期
	B	C	B

- 取組の方向性 1 国際的認知度向上の促進
 - ・脱炭素社会の実現に向けて、令和2（2020）年度に脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定するとともに、令和4（2022）年3月には川崎市地球温暖化対策推進基本計画の改定を行い、重点事業（5大プロジェクト）を中心に取組を推進したほか、「液化水素サプライチェーンの商用化実証」において、液化水素の受入地に川崎臨海部が選定され、令和7（2025）年11月には世界初となる商用規模の液化水素基地の建設が開始されるなど、先端技術分野でも国際的な注目を集める動きが見られた。
 - ・令和7（2025）年にはIJRU世界選手権(ジャンプロープの世界大会)が川崎市で開催され、様々な国や地域の選手が川崎を訪れる機会が生まれ、国際交流の広がりにもつながった。
 - ・音楽のまちづくりの推進においても、かわさきジャズやアジア交流音楽祭等を通じて、多様な主体との連携を広げるとともに、市民参加型のプログラムや幅広い世代向けの公演を展開し、地域の活力と都市ブランドの向上に寄与した。
 - ・これらの環境、先端技術、国際スポーツ、文化芸術といった多様な分野での取り組みが積み重なることで、本市の強みが多方面から発信され、国際的な認知度の向上が図られた。
- 取組の方向性 2 海外から人を川崎にひきつけるまちづくり
 - ・川崎駅周辺において、民間開発の誘導によりホテルの開業やオフィス入居が進み、海外ビジターの受入環境の整備が進展した。
 - ・主要観光施設の年間観光客数については新型コロナウイルス感染症拡大前の水準にまで回復していないものの、海外向けの本市SNSアカウントや、多くのフォロワーを有するインバウンドメディアのSNSアカウントの活用、英字新聞への広告掲載等、各種プロモーションを実施するとともに、Googleマップへの飲食店の情報掲載及び運用の支援を実施するなど、海外から多くの人を呼び込むための下地づくりが着実に進展した。
- 取組の方向性 3 海外諸都市との戦略的な関係の構築
 - ・韓国・富川市との青少年サッカー交流の実施や、クアチア・リエカ市との姉妹都市提携40周年を記念した記念コンサートの実施等、姉妹・友好都市関係の深化に寄与した。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により諸外国との往來の制限がある中でも、台湾・タイ・ベトナム企業とのオンライン商談会を実施し、産業交流の機会を確保した。対面交流が再開されて以降は、海外都市からの視察受入や市内企業とのマッチング支援、さらには大使館等と連携した文化イベントの開催など、多角的な国際交流が展開された。
 - ・これらの取り組みにより、各都市と互恵的な関係を築き、川崎市が国際ネットワークを活かして成長していくための基盤が強化された。
- 達成状況

これらの結果、新型コロナウイルス感染症拡大により大きな影響を受けた期間があったものの、世界的なプレゼンスの確立に向けて着実な前進が見られ、基本目標2は概ね目標どおり進捗した。

基本目標 3 多様性が市民の生活を豊かにしていくことを誰もが認識しているまち

各期の達成状況		
第1期	第2期	第3期
A	B	B

○取組の方向性 1 地域での交流・多文化共生の促進

- ・「（公財）川崎市国際交流協会と連携した取組」として、各種事業・イベント、講座、ボランティア活動等の情報発信を行うなど、国際相互理解、国際交流、地域の支え合いに一定の進捗があった。
- ・「市立学校への外国人市民の講師派遣」の取組として、地域の外国人市民等を自国の文化を児童生徒に伝えるボランティア「民族文化講師」として派遣するなど、外国人市民の社会参画に向けた取組を実施した。
- ・かわさき多文化共生プラザの整備により、多言語での生活相談などをワンストップで提供できる体制が整えられ、地域における支援基盤が大きく前進した。

○取組の方向性 2 誰もが暮らしやすい環境づくり

- ・区役所でのタブレットを活用した多言語案内の導入や、市総合コンタクトセンターにおける多言語対応の推進などにより、外国人市民が行政サービスを利用しやすい環境づくりが進んだ。
- ・日本語指導の初期段階や中学生への学習支援等を行う日本語指導初期支援員を配置し、さらに特別の教育課程による日本語指導を国際教室担当者及び非常勤講師の巡回により対象児童生徒がいるすべての学校で実施するなど、外国につながる子どもを支える教育施策を推進し、誰もが安心・安全に生き生きと暮らし続けることができる環境づくりに寄与した。

○取組の方向性 3 グローバル都市・川崎を担う人材の育成・活用等

- ・川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例及び人権施策推進基本計画「人権かわさきイニシアチブ」に基づき、人権問題に関する取組や、人権意識の向上を図るための人権意識の普及や協働・連携による取組等を進めた。
- ・令和4（2022）年度改訂の「パラムーブメント推進ビジョン」に基づき、パラムーブメントの理念浸透や心のバリアフリーに関する啓発イベントや SNS を活用した広報などが展開され、市民一人ひとりが多様な価値観に触れる機会が拡大した。
- ・学校教育においても、外国文化体験や自国の伝統文化の学習など、多様な文化を認め合う心情を育む授業が実施され、グローバル化に対応できる国際感覚豊かな人材の育成が図られた。

○達成状況

これらの結果、市民一人ひとりが国際感覚や高い人権意識を持ち、様々な文化の違いによる「多様性」が自分たちの生活を豊かにしていくことを市民誰もが認識しているまちに向けた環境が形成され、基本目標 3 は概ね目標どおり進捗した。